

2017年9月25日

武田 知己

はじめに

2017年8月28日から9月8日までの9日間、学生6人を引連れて、沖縄県を訪れた。昨年に引き続き、二度目の沖縄研修である。

周知のように、日本の安全保障環境は激変し、沖縄問題も政治の争点となっている。今回は、①沖縄問題の歴史的背景、雑誌論調の調査、②安保法制の内容、横須賀などでの自衛隊部隊研修に加え、③沖縄戦史研究を事前に学習し、現地では県庁訪問、講演会、基地周辺での聞き取り調査、那覇駐屯地研修、戦跡視察を企画した。また、与那国島・竹富島・石垣島視察を実施できたことは収穫であった。さらに今年度も、中京大学、沖縄国際大学との合同ゼミ報告会を開催できた。参加した教員は、藤井誠一郎・武田の2名である。なお、オブザーバーとして、蔵田明子研究補助員にも参加していただいた。

以下、9日間にわたる実施内容を、参加した益城遙、本間健太、赤坂奈々子、大久保知佳、高木美祐、大滝茉莉杏の報告書を踏まえてなるべく簡潔に報告し、次回の課題を見据えた参加学生の詳細な感想を記したい。

1. 与那国島・竹富島・石垣島視察



28日に本島入りし、29日・30日と与那国島、竹富島でヒアリングと街並み視察を行った。

日本の最西端に位置する与那国島は、2015年2月に、自衛隊誘致をめぐる住民投票を行った。今回は、与那国町役場で行政側からヒアリングを行い、他方で誘致に反対する町議からもヒアリングを行った。その結果、そもそも町として推進してきた台湾との交流には行政側も反対(革新)側も、現在に至るまで積極的であり、自衛隊誘致も財政面での即効性を最大限期待した政策であったことが分かった。つまり、これは離島振興政策の一面だったわけである。竹富島は全く趣を異にし、街並みを観光資源として一定の成功を収めていることが

分かった。離島政策は、島々の特性を最大限活用した多様性を持つ政策をとっていることが

分かった。

2. 高良倉吉氏講演会

31日には、那覇市で高良倉吉元副知事に「沖縄問題の考え方」という講演をいただいた。琉球王国の著名な研究者である高良氏のお話は、時代をさかのぼり、また現代にと時間を自由に行き来した。沖縄は東西に100キロ、南北に400キロを有する島でできた県であるというその地理的な特徴も、沖縄問題を安全保障にのみ、限定する発想を根本的に考え直すことを迫られたものであった。学生は事前に質問も準備しており、質疑応答も充実したものであった。

学生からも「沖縄が抱える問題を私たちが考えるには、バックグラウンドを知ることが重要であると感じた。琉球王国時代の話であったが、それは基地問題を考えるうえでも重要であるといわれた。琉球王国時代の話は、沖縄は本土の人に差別されていると感じている。そうした点を踏まえて、沖縄の問題を国の問題と考えるべきだと感じた」という意見が出された。



3. 沖縄県庁・琉球新報視察

県政を担う沖縄県庁では、埼玉県出身の職員から県政全般のお話を伺った。学生からの質問にも丁寧に答えていただき、ここでも沖縄の抱える問題を安全保障に限らずにとらえなおすことの大切さを学んだ。他方で、宜野湾市のヒアリング（後述）ともかかわるが、学生からは「本土の人は当事者意識が低い。沖縄全体で基地の縮小を求めている、と琉球新報は言うが、宜野湾のヒアリングでは、基地がもう当たり前とっている学生たちに出会った。学生内でも政治的な意見を持つことで冷たい目で見られることがあるとっていた。住民

が問題として取り上げていないのが、驚きであった。上空を飛行機が飛んでいるのに、日々人口が増えているのは驚きであった」という意見も出されている。



琉球新報での視察では、沖縄を代表するメディアの立場から、沖縄の世論が一方では基地を容認するものと、他方では激しく基地を批判するものとに二分している状況をどうとらえるのかを巡り、様々な意見を頂戴した。基地の返還により経済振興が図られるとしても、軍用地返還後

の跡地利用の具体策についても様々な議論があることが分かった。

4. 旧海軍司令部壕・旧陸軍司令部壕・嘉数台公園・前田高地跡など

沖縄戦跡視察も今回の研修の目的の一つだったが、今回は、自衛隊東京協力本部の御助力を得て、旧海軍司令部壕・旧陸軍司令部壕・嘉数台公園・前田高地跡などを視察した。



それぞれ著名な観光地となっているが、今回は、自衛隊幹部研修と同じ研修を受けることで、戦術的な側面からの説明を受けた。

こうした説明を、那覇駐屯地での沖縄戦のジオラマでの解説と合わせて理解することで、沖縄戦の壮絶さを改めて理解できた。



以下に、沖縄戦跡を中心に視察した学生の感想の概要を記したい。

・今回、私は沖縄戦史をテーマにしてアクティブラーニングに参加した。これまで沖縄戦について一般的な知識しか持っておらず、実際に現地の方の話や戦跡に行って、決して本やネ

ットの情報だけでは知ることのできない話や体験をすることができた。

・旧帝国海軍司令部壕については、沖縄戦で帝国海軍が実際に使用していた司令部壕で、戦闘の最中、隊員たちが「くわ」や「つるはし」を使い、手作業で掘ったということに衝撃を受けた。中には「司令官室」や「作戦室」「幕僚室」「下士官兵員室」などさまざまな部屋があった。幕僚室には、幕僚たちが手榴弾で最期を遂げた時の破片のあとが壁一面に残っていた。また下士官たちは玉砕の近い6月頃には立ったまま睡眠や休息をとったということに驚きを隠せなかった。

・旧帝国陸軍司令部壕、嘉数台公園、前田高地跡については、圧倒的な米軍の火力の前に徐々に押し込まれていった日本軍は、沖縄の地形を上手く活用し、戦略的に兵力差や武器の質の差をカバーして米軍を大いに苦しめたということを知った。実際に行ってみると、細くくねった谷道を行かなければならないため米軍にとっては戦力差を活かせず、常に奇襲に備えなければならないという精神的ダメージを与えることもでき、日本軍が長く持ちこたえられたことに納得した。

・各地での自衛隊の方の案内もわかりやすく感銘を受けた。横須賀基地見学でもお世話になり、自衛隊の方も気さくでよかった。印象が変わった。

5. 那覇駐屯地視察



那覇駐屯地の見学では、今回の視察の大きな目的と言ってよい安全保障の政策の現場をまじかにみることができた。日本の南西方面の防衛政策の解説にはじまり、装備の説明、さらに沖縄独特と言ってよい不発弾処理の問題について説明を受けたのち、隊員が手作りしたというジオラマ（最近塗装をし直したという）を用いた沖縄戦の解説は圧巻であった。学生からも「特に感銘を受けたのは、

自衛隊那覇駐屯地での沖縄戦のジオラマだった。自衛隊の那覇駐屯地で自衛隊の方が作った沖縄戦のジオラマは映像と模型が連動して動き、とてもわかりやすかった。また模型は実際の沖縄の地形を計測し作られたもので、軍事機密なので撮影などは禁止されているのも面白いと思った」という感想があった。

6. 宜野湾市視察・辺野古視察

宜野湾市では、普天間基地周辺の住民や市議、さらに同地区を選挙区とする代議士から様々な問題に関するヒアリングを行った。

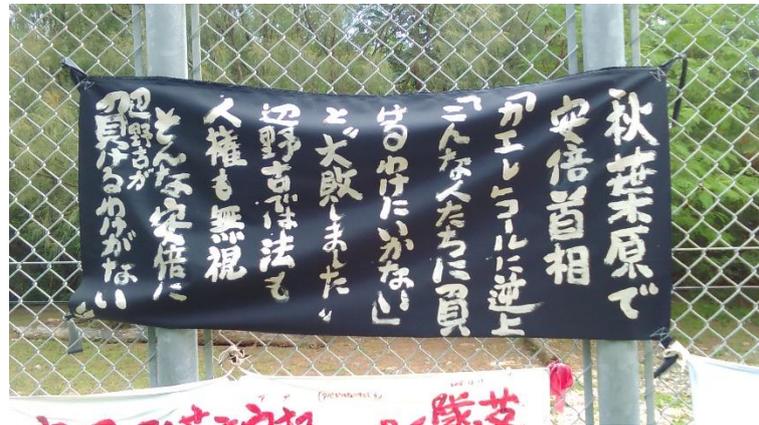
真栄原公民館で行ったヒアリングで、学生は多くの質問をかわし、たくさんの応答がなされた。



宜野湾市議・知名氏、自民党代議士・宮崎氏の解説

また、普天間基地の移転予定地である辺野古海岸でも視察を行った。旧盆中であり、デモなどは行われていなかったが、海岸には様々な張り紙も張られており、

反対運動の様子も垣間見ることができた。



7. 屋良朝博氏講演会

沖縄国際大学では、海兵隊研究者として活躍されている元沖縄タイムズ記者・屋良朝博氏から、海兵隊研究の立場から見た日本の国防、近年の日米関係、さらには沖縄における基地の存在をどう感じてきたのかなどをめぐり、1時間ほどのお話を伺った。

また、ご自身が沖縄に生まれ、基地とどう付き合いしてきたか、フィリピンの大学に入学し、さらに現地でフィリピン人とともに民主化運動に参加した経験などをお話しされ、学生には大いに刺激になったようである。



8. 沖縄国際大学・前泊ゼミとの合同報告会

最終日には、5日間の本土研修(離島を入れれば9日間)の成果報告という意味も込めて、代表2グループによる成果報告会を行った。中京大学からも2チーム、沖縄国際からは1チームの報告があり、安全保障から経済振興政策まで、幅広い報告と議論が交わされた。

また、沖縄研究者として著名な前泊氏からは、普天間基地の問題点などについての講義も行われた。最近の翁長県政の動きについても興味深い話を頂いた。





おわりに

こうした研修に対し、参加学生からアンケートを回収した。以下、掲載する（2017年9月10日集計）。

来年度に向けての改善に活用していきたい。

1 今回の研修で特に勉強になったプログラム

○宜野湾市ヒアリング（3名）

- ・実際に、市で生活している住民の方にお話を聞くことで、本音を知ることができた。また、飲みの席でしか聞くことができない話を聞けて貴重な経験ができた。
- ・現地の方々の直接の声が聞けて、本土には知ることのできない事情がわかった。
- ・実際に住んでいる人の声を聞く体験は自分たちで組んでも簡単に出来るものではないし、色々なお話を市民の方から直接得ることがとても大切だと思ったから。

○高良倉吉氏講演会（2名）

- ・沖縄研究における歴史認識の重要性や、その上での沖縄の現代、未来における考え方の指針を学ぶことができた。
- ・高良先生の講演から、琉球時代には東南アジアと貿易をしていたことが分かった。泡盛は東南アジアとの交易の遺産だということをこの時、初めて知りました。また、基地問題は沖縄県で考えることではなく、日本全体で考えるべき問題であるという点が、すごく勉強になりました。

○那覇駐屯地と旧海軍司令部壕・戦跡研修（2名）

・正直、沖縄戦についてはあまり興味なかったために事前の勉強も知識程度にしか行わなかったが、濠で戦争の爪痕を生で見た後に那覇基地でジオラマの説明を聞いたことでどれだけ酷いものだったかを再確認したし興味を持つきっかけになった。

・自分の目的の一つでもある沖縄戦についてジオラマを用いたり、戦場跡などを実際に見ることができた

○那国島でのヒアリング

・それぞれ立場の違う方からの話が聞けて参考になったから。

○合同ゼミ (2名)

・自分の発表に対して、他の大学の先生や学生から意見を貰うことは初めての経験で自分の今後の発表にも様々な意見を取り入れたいと思えたから。

・基地があって、そこで暮らしている人たちの声を生で聴くことによって、本土とは視点が違うということが分かった。「危険な場所なのになぜ住むの？」という意見があるという話があるということだったが、話を聞いている中でこれが大きな間違いだということに気づいた。また、共存ということから交流もしていることが分かった。これらは、沖縄に行かなかったら聞けなかった話であるから、貴重な機会になった。

○那覇基地見学

・沖縄戦の詳細も模型を使ってわかりやすく説明していただけたりビデオを見て勉強したり、講演会とはまた違った方式で勉強できたことがとても印象的だった。

2 来年度に向けての改善点

○参加者を増やすべき

2年生からの参加者を増やし、社会問題に関わる時間を増やすことが大切だと思う。

○ホテル・航空券は個人で取る

3年生はインターンシップが重なるなど、日程の面での柔軟性が必要だと思う。中京大の学生は、同じホテルに合わせて個人で手配をしたと聞いて、良い考えだと思った。

○部屋のとり方

また、四人部屋も全然不便ではなかったがもしかしたら発表する人同士で固めた方が良かったのかもしれないと思った

○沖縄研究の準備期間を増やす

アクティブラーニングの時間の研究時間自体を増やすことが可能だと思う。より研究を深めた状態で、現地に視察することが何よりも大切である。

○ゼミ同士の交流

・初日にゼミ同士の交流があれば壁がなく過ごせたのかなと思った。

・今回は合同ゼミという形だったが、中京大学の人たちとは、あまり関わることなく、実際に仲良くなったのは、合宿終了前の懇親会だったので、今回は中京側の日程の都合もあったのですが、今回は最初に懇親会をやった方がいいと感じました。

・中京大学の方と大型バスで移動して同じところを回ることが何回かあったが、話すきっかけも掴めなかったため、1日目など早めの日程に懇親会を開催してほしい。

・懇親会の出席を最低1日にしていただけると、学生にはありがたい…と思う。

○時期

・旧盆だと基地関係の活動などが見られないので、他の時期の方が良いかもしれない。

○名刺

・名刺を作らなかったことを後悔したので、事前に必ず全員が用意していくと良いと思う。

○ホテル

・ホテルでパワーポイントの作業をしていてやはり部屋にWi-Fiが使える環境がほしい。

○その他

・終電で帰るようになるフライトはきつかったかな？と思います。

・スケジュールが過密だった部分があったかなと思います。

3 全体の感想

○とても貴重な経験をする機会を設けてくださった武田先生をはじめとする先生方に感謝申し上げます。私自身、初めて沖縄を訪れたのですが、5日間で多くの場所を回り、視察や研究だけではなく、観光ができて、とても楽しむことができました。

○また、他大学との学生との交流により、意識向上への意欲が高まりました。沖縄本土の沖縄国際大学の学生は、沖縄への想いが強く、基地問題について深く研究し、自ら数値化するなど主体的な学習をしていることが印象的でした。中京大の学生は、佐道先生の下であらゆる問題に意識を向け、経済面、政治面などの視点から研究しており、情報量の多さに圧倒されました。こうした学生の方々と会って、刺激を受けました。

○この沖縄での活動で何事も現地で自分の目で見えて確かめて声を聞かなければ何もわからないということが分かった。また、自分のテーマが沖縄戦では無かったためあまり興味のない分野もあったが、実際に見たことで改めて悲惨さと未だに爪痕が残ってる現状が未だに忘れられず、すべての分野で学び直した研修となったと思う。

○個人で活動する時間もあっても良かったかなと思った。

○ゼミ合宿を行う前までは、沖縄の人はみんな米軍基地に対して、不満を抱えており、反対運動など積極的に参加しているものかと思われましたが、実際は基地があるのは当たり前で、寧ろ本土の学生よりも関心がないということに驚きました。

○事前の知識と現地での実態の違い等が多く驚いたが、考え方の異なる講演会やヒアリングの場を連日経験することが出来たおかげで、一つの視点に留まらないで物事を知ることの大切さが理解できた。

○地域性のある課題に取り組むとき、現地での体験・調査は欠かせない存在であることを実感した。

○今回、実際に沖縄に行ってみて、行かなきゃわからないことがたくさんありました。本土

に居たらわからない生の声、実際に見ることによって沖縄の人がどのように感じているのかを考えるきっかけができました。また、頻繁に飛んできているミサイル問題があったりとまだまだたくさん問題がある中で、安全保障についてや日米地位協定について考えていたらなと思っています。

○今回沖縄をゼミ合宿という点で訪れることができ、沖縄戦時中のお話や普天間基地移設問題など本土で語られること以上にたくさんのお話を聞ける機会があって、とても勉強になりました。自分たちが思っているより基地自体が身近になってしまっていることが思い返しても 1 番驚いたことでした。本土の人は関心がないというより、その情報の少なさ故にわからないだけなんじゃないか、日本で起こっている問題としてきちんと取り上げるべきだと改めて感じました。5泊6日ありがとうございました。

4 次回参加するとして、行きたい場所ややりたいこと

・ひめゆりの塔 (2名) 沖縄戦ことを考えることによって、平和について考えることができると思うからです。

・首里城 (2名) 琉球の時代からの沖縄を見ることによって、今感じている沖縄とは違った見方ができると思うからです。

・石垣島で綺麗な海を見たい

・青の洞窟でシュノーケリング

・有名な観光スポットを二、三か所

・正直行き尽くしたと思います！が、まるまる 1 日海に行ける日があったらもっと良いかなと思いました。

(以上)

添付資料 1 沖縄研修スケジュール

添付資料 2 高良倉吉氏、沖縄県庁、琉球新報への質問事項

2017年度沖縄研修スケジュール				
時間	場所	メンバー・人数	内容	
□8月28日（月）				
14:40～ 17:15	羽田→那覇	武田+大東大学生1名	那覇入り	ANA475便 羽田 14:40発→那覇 17:15着
□8月29日（火）				
9:25～ 10:20	那覇→石垣	武田+学生1名	石垣入り	ANA1763便 沖縄 (那覇)(09:25) - 石垣 (10:20)
12:30～ 13:00	石垣→与那国	佐道+中京大学生2名 武田+大東大学生1名	与那国島入り	RAC743便 石垣 12:30発 → 与那国 13:00着
13:30～ 15:00	与那国島	武田・益城	与那国視察・ヒアリング	役場など
15:30～ 18:30	与那国島	佐道+中京大学生2名 武田+大東大学生1名	佐道友人宅で意見交換	佐道友人宅
□8月30日（水）				
午前中	与那国島	武田+大東大学生1名	与那国島見学・資料収集	与那国島町役場など
13:35～ 14:10	与那国→石垣	佐道+中京大学生2名 武田+大東大学生1名	石垣入り	RAC744便 与那国 13:35発 → 石垣 14:10着
午後	石垣→竹富	武田+大東大学生1名	竹富島	竹富島視察
19:20～ 20:15	石垣→那覇	武田+大東大学生（1名）	那覇入り	ANA3750 石垣 (19:20) - 沖縄(那覇) (20:15)
□8月31日（木）				
7:50～ 10:20	羽田→那覇	大東大学生5名	那覇入り	ANA463便 羽田 7:50発 → 那覇 10:20着
11:30～ 12:30	沖縄ホテル	武田・蔵田+大東大学生6名	全体スケジュール確認・バス代徴収・懇親会参加者確認 終了後昼食	ロビー集合
12:30～ 15:30	自由時間			

15:30～ 16:00	那覇高校	・大東大学生 3人 ・佐道+中京大学生12名 ・高良倉吉先生ご来場	会場集合・準備	
16:00～ 18:00	那覇高校	・大東大学生 6名 ・中京大学生 12名 +同窓会+来場者	高良倉吉先生講演会 主催：大東文化大学 国際比較政治研究所 「危機と転換期の政治学」研究班 後援：大東文化大学 同窓会	那覇高校脇 城岳同窓会館3F 集合 〒900-0014 那覇市松尾1-21-53 Tel.098-867-2525 Fax.098-867-2525
18:30～	那覇高校→懇親会会場	大東文化大学関係者のみ	懇親会 上原正吉の店 ナークニー	那覇市牧志1丁目3-53 TEL: 098-868-3924
□9月1日(金)				
09:50～ 10:30	沖縄ホテル集合→沖縄県庁	大東文化大学：武田・蔵田 +6人=8人乗車予定	観光バス乗車	沖縄ホテル 那覇市大道35番地 電話098-884-3191
10:30～ 12:00	沖縄県庁	同上	沖縄県庁視察	〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号 電話：098-866-2333
	国際通り	全員	昼食	
13:30～ 15:00	琉球新報	・大東文化大学：武田・蔵田+6人=8人 ・中京大学：佐道+23人=24人 32人参加予定	琉球新報社で説明会	〒900-8525 沖縄県那覇市天久905 代表番号098(865)5111
	琉球新報→旧海軍司令部壕		バス移動	
15:30～ 16:30	旧海軍司令部壕	同上	旧海軍司令部壕事業所	旧海軍司令部壕事業所 〒901-0241 沖縄県豊見城市字豊見城236番地 TEL.098-850-4055 FAX.098-850-9342
	海軍司令壕→沖縄国際大学		バス移動	
17:30～ 19:00	沖縄国際大学	同上	屋良朝博氏講演会	〒901-2211 沖縄県宜野湾市宜野湾2-6-1 電話098-892-1111
	沖縄国際大学→那覇空港→おもろまち駅→沖縄ホテル		バス移動	

□9月2日（土）				
10:10～ 13:15	成田→那覇	藤井	那覇入り	JW803便 10:10 NRT → 13:15 OKA
午後中	自由時間			
15:00～ 16:00	おもろまち駅→宜野湾市	藤井・武田・蔵田+大東大 大学生3名+中京大学生5名 11名	宜野湾市でヒアリン グ	真栄原公民館 〒901-2215 沖縄県 宜野湾市真栄原3丁 目5-13 電話：098-898- 2326
夜	宜野湾市		懇親会	旬鮮 一步 宜野湾市真栄原1- 23-7 電話098-897-7825
□9月3日（日）				
8:45	おもろまち駅前集合	・佐道+中京大学生19名= 20名 ・武田・藤井+6名=8名 28名乗車予定	観光バス乗車	空波観光バス 景山 TEL：098-8 51-8298 FAX：098-8 51-8398
9:40～ 10:10	嘉手納・道の駅	同上	嘉手納・道の駅	沖縄県中頭郡嘉手納 町屋良1026-3 電話 098-957-5678
	嘉手納→辺野古	バス移動		
10:40～ 11:10	辺野古移転予定地	同上	辺野古移転予定地	★詳細は当日までに バス会社と相談
11:40～ 12:30	道の駅許田	同上	昼食・休憩	
	許田→美ら海	バス移動		
14:00～ 15:40	美ら海水族館	同上	美ら海水族館	〒905-0206 沖縄県 国頭郡本部町石川4 24 電話0980-48- 3748
19:30	おもろまち駅前	同上	解散	
□9月4日（月）				
8:30	沖縄ホテル	中京大：佐道+中京大学生 16名=17人 ・大東大：武田・藤井・蔵 田+大東大学生6人=9人 ・東京事務所 高橋 ・愛知事務所 杉浦・後藤	観光バス乗車	沖縄ホテル 沖縄県 那覇市大道35番地 電話098-884-3191
	沖縄ホテル→那覇駐屯地	バスで移動		
9:15～ 10:00	講義	沖縄周辺における自衛隊の 地位役割及び那覇駐屯地の 概要説明	那覇駐屯地	〒901-0192 沖縄県 那覇市鏡水679 電話：098-857- 1155
10:00～ 10:40	沖縄戦史	ジオラマによる沖縄史説明	同上	同上
10:40～ 11:10	資料館見学	展示物見学	同上	同上

11:10~ 12:00	装備品展示	装備品展示	同上	同上
12:10~ 12:40	体験喫食	隊員食堂で喫食	同上	同上
12:40~ 13:00	土産購入など		同上	同上
	那覇駐屯地→嘉数台公園	バス移動		
13:40~ 14:00	嘉数台公園	戦術的な価値について講話	嘉数台公園	〒901-2226 沖縄県 宜野湾市嘉数1丁目 5
	嘉数台公園→首里城公園	バス移動		
14:20~ 14:40	首里城公園第32総司令部跡地	概要説明	首里城公園管理センター	〒903-0815 沖縄県 那覇市首里金城町1- 2 電話098-886-2020 fax098-886-2022
	首里城→沖縄国際大学	バス移動		
15:30~ 18:30	沖縄国際大学	合同ゼミ（前泊ゼミ）	・屋上より普天間基地視察 ・合同ゼミ（20分×2 ×3大学）	〒901-2211 沖縄県 宜野湾市宜野湾2- 6-1 電話：098-892- 1111
18:30~	懇親会			
□9月5日（火）				
10:05	沖縄ホテル→那覇空港	蔵田帰路		ANA994 那覇発 10:05→羽田着12:30
13:55	首里城→那覇空港	藤井帰路		JW804 13:55 OKA → 16:35 NRT
19:15	那覇空港	武田+学生帰路		ANA★ 19:15那覇 発→羽田着21:40

2017年8月31日

担当：大東文化大学法学部政治学科3年

赤坂奈々子

前略 事前の勉強会で先生の『沖縄問題』（中公新書）を参加者で読みあいました。いくつか質問を考えましたので、質問表としてまとめました。先生のご講演の後に質問させていただきます。よろしくお願いいたします。草々

- 1、辺野古移設をめぐる基地問題における県と国による最高裁での裁判や、国連での演説等の翁長知事の基地移設反対の政策について、どのようにお考えでしょうか。現在、副知事をやめられてからのお考えに、副知事時代との変化はございますか？

参考：

<http://www.pref.okinawa.jp/site/chijiko/henoko/latest.html>

沖縄県ホームページ 辺野古問題最新情報 2017/08/23 アクセス

<http://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/26410> 沖縄タイムズ 2017/08/23 アクセス

ス

- 2、現在の翁長県政における最高裁での県の敗訴、翁長知事を支持する政治勢力が、宮古島、浦添、うるまでの市長選、那覇市議選での過半数割れを含めて4連敗したことで、自民党系を支持する県民が多くなっていると言われますが、先生はどのようにお考えですか。
- 3、先生が書かれた『沖縄問題』をよみ、米軍基地問題を中心に沖縄は、日本と米国の間にある存在する立場としての地域外交をして両国の架け橋になるべき存在だという考え方に共感を持ちました。先生は、こうした考えの意義や重要性をいかにして本土の人間に広め、関心をもってもらいたいとお考えですか？

参考：

高良倉吉『沖縄問題 リアリズムの視点から』中公新書 2017 p.219

- 4、副知事をなされていた際に、行政の立場として、基地移設問題に取り組むことの制度上での難しさは、どのようなものでしたか。
- 5、21世紀ビジョン構想により、沖縄振興が期待されるなかで、「沖縄は日本の一員」であるとして尽力した伊波普猷や屋良朝苗などの方針と今の沖縄の進むべき道は同じであ

ると思いますか。また、異なるとすればどのようなことでしょうか。

- 6、沖縄は、アジアとの関係を重視し、航空路線の拡充などにより、実際に今年度の観光客が増加していますが、今後沖縄はどのように海外と関わっていくことが大切だと思いますか。

参考：

日経電子版 沖縄観光客数 12.7%増の 90.7 万人 7 月最多 2017/08/24 アクセス

沖縄県庁への質問

2017年8月24日
大東文化大学の学生より

■仲井真県政から翁長県政へ

・基地問題への対応をめぐっては、仲井真知事から翁長知事へと県政が移行した事で大きな変化がありました。それ以外の県政全般にはどんな変化や影響がありましたか？

・2017年1月から、宮古島、浦添、うるまの各市長選での「オール沖縄」の敗北に続き、人口が県内最多の那覇市議選においても「オール沖縄」は過半数割れとなりました。自衛隊誘致反対派・基地反対派が分裂する傾向が強まっていると思われませんが、沖縄県の基地問題に関する態度にはどのような変化がありますか？

■基地問題について

・もし米軍基地の一つが県外移設した場合、どういった補助金・交付金が減るのでしょうか？基地に関する補助金、交付金の減額は、沖縄県の行政サービスにはどの程度の影響があるのでしょうか？

■危機対応をめぐって

・尖閣問題や東シナ海問題以外に、北朝鮮のミサイル問題を巡っては、沖縄県としてはどのような対応をしていますか？

■与那国島の国際交流をめぐって

・与那国島の国際交流問題を今回の研究テーマとしていますが、与那国島の台湾との交流について、県はどのようなかわりがあったのかをお聞かせください。

県庁への質問事項

●観光産業について

1. 沖縄県でも外国人観光客が増加していますが、外国人観光客誘致のために行った政策のうち、どのようなものが効果があったと評価しておられますか。
2. 外国人の中でも台湾や中国本土などアジアからの観光客が多いと思われていますが、今後特に力を入れて増やしたい地域（アジアだけでなく）はどこでしょうか。
3. 観光産業は沖縄の産業全体の中でも重要な位置にあると思います。今後、一層観光客を増やすうえで、県内の受け入れ態勢などで、優先的に対応すべき課題はどのような点でしょうか。
4. 県内の観光産業について、県は民間の観光業者とはどのような連携・協力体制をとっているのでしょうか。また、観光産業発展に関し、国にはどのような協力を期待しているのでしょうか。

●沖縄の経済全般に関して

1. 観光産業のほかに沖縄県が積極的に振興策を考えているものとして IT 産業があります。そのためには人材確保の重要性も指摘され、県では「I・Uターン技術者確保支援事業」といった施策も行われていたようですが、そういった施策の効果はどうだったのでしょうか。また、いっそうの IT 産業振興に関する課題はどのようなものなのでしょうか。
2. ホームページで県の産業政策を拝見する中で、再生医療産業やバイオ産業というのがあります。こういった新規の産業の中で特に力を入れておられるものは何でしょうか。また、具体的に、前記の産業を誘致するなどの活動を行っている地域では、現状はどうなっているのでしょうか。
3. 多くの離島がある沖縄県では、本島や宮古島、石垣島などのような大きな島と、離島で

はかなり条件が違うと思います。農業や漁業が衰退し、人口減少に悩む離島の振興は、沖縄県でも重要な課題と思います。離島振興策として現在とくに力を入れておられる施策にはどのようなものがあるのでしょうか。

●基地問題について

1、普天間基地機能の辺野古への移設に関して、現在知事は反対しておられます。一方では、このままでは普天間基地の固定化につながるという批判もあるようですが、そうした事態にならないために、県として行える具体的な施策はあるのでしょうか。

2、米軍基地がある地域では、地域コミュニティと米軍でイベントを行ったりするなど、関係を良好にするための活動も行っていると聞きます。県としてもそういった活動には協力しているのでしょうか。

3、県のホームページを参照すると、米軍の規模や人数、また事件や事故の数などを把握できます。しかし、事件や事故が起こった場合の米軍の対応などについてはよくわかりません。普天間基地機能の辺野古移設、あるいはオスプレイ配備反対の声が高まっているなかで、米軍に起因する事件や事故への対応に関し、米軍の態度には変化はあるのでしょうか。

4、実際は普天間基地の返還問題は進展していませんが、返還後の跡地利用について、宜野湾市とはどのような検討をされているのでしょうか。また、その他の嘉手納以南の施設返還後の跡地利用についてはいかがでしょうか。

5、沖縄県は以前から地位協定の改正を要請されています。県として、特に優先的にしてほしい条項は何でしょうか。

6、米軍基地が身近になく、米軍による事件や事故について、本土の住民はなかなか実感がわきません。また、本土の新聞やテレビなどでは、よほど大きな事件や事故でないと報道も

ありません。本土の学生に知っておいてほしいことはどのようなことでしょうか。

●その他

1. 沖縄の女性の平均寿命は全国で1番長いというデータがあります。しかし沖縄の平均寿命の男女差は青森に次いで2番目に差が大きいです。男性の平均寿命についての対策はなにかありますか。

2. 石垣島など、本土から移住した人が多く生活していると聞きました。本土からの移住は現在も多いのでしょうか。また、こういった人々は移住後、どのような仕事や生活をしているのでしょうか。

3. 尖閣諸島をめぐる中国との関係が悪化していることが懸念されています。公船がしばしば領海を侵犯するといった活動に対し、県としては抗議も含めた対応をしておられるのでしょうか。

2017年8月24日
大東文化大学の学生より

■仲井真県政から翁長県政へ

・基地問題への対応をめぐっては、仲井真知事から翁長知事へと主張が交代した事で大きな変化がありました。メディアの立場から見て、それ以外の県政全般にはどんな変化や影響があったとお考えですか？

■沖縄の世論をどう判断するか

・中京大学の質問にインターネット上での御社が偏向報道をしているという点に関する質問がありましたが、沖縄県には「八重山日報」のように、基地反対派の問題を報道しているメディアもあるようです（たとえば、デモが渋滞を引き起こしていることに住民が不満を持っていることなど）。2017年は自治体の選挙結果を巡って「オール沖縄」が分裂しているという分析もあります。こういったことを見ても、本土からみて、基地をめぐり沖縄の世論は賛成・反対のどちらにあると考えたらいいのか難しいですが、アドバイスをいただけますか？

■沖縄問題を報道する姿勢

・琉球新報社が沖縄をめぐり諸問題を報道するうえで、特に気を付けていることはありますか？

琉球新報への質問事項

●沖縄と本土の関係について

1. 本土の新聞やテレビなどでは、基地問題に関して、よほど大きな事件や事故でないと報道もありません。本土の新聞やテレビでの報道について、大きな違いがあるとすればどういったことでしょうか。

2. 1の質問にも関係しますが、最近では、沖縄の地元紙（琉球新報、沖縄タイムス）が偏向報道をしているという批判が、ネットや本土での一部のテレビ番組などでは行われています。そうした批判については、どのように考えておられるのでしょうか。

●基地問題に関する報道について

1. 米軍基地が身近になく、米軍による事件や事故について、本土の住民はなかなか実感がわきません。本土の学生に知っておいてほしいことはどのようなことでしょうか。

2. 沖縄の米軍基地への反対運動に関して、その裏では中国などの外国がかかわっているという話などがネットや、一部の報道で語られています。こういった話の真偽については、本土ではなかなか確認できないのですが、こうした「噂」についてはどのように考えておられますか。

3. 沖縄県では普天間基地の辺野古移設やオスプレイ配備に反対する意見が多数といわれている一方で、移設賛成派も実際には多いという話も聞きます。またこうした人々と反対派の衝突も伝えられていますし、反対派の人々の「暴力行為」やもともと反体制派の活動家が多いといった批判が、ネットや一部の報道にあります。基地反対派の人々は、実際にはどういった人々が多いのでしょうか。

4. 産経新聞に、「立ち入りが禁止されている臨時制限区域内で基地建設反対派が不法に撮影した写真を掲載した」と報道されていました。防衛局から不法行為を助長する恐れが

あるとして自肅要請が出されてたということですが、写真を掲載された経緯をお聞かせください。

(注) 産 経 新 聞 記 事 :

<http://www.sankei.com/smp/entertainments/news/170722/ent1707220010-s1.html>

● 沖縄に関する全般的な問題について

1. 観光産業は沖縄の産業全体の中でも重要な位置にあると思います。今後、一層観光客を増やすうえで、県内の受け入れ態勢などで、優先的に対応すべき課題はどのような点でしょうか。

2. 以前は、沖縄は健康・長寿の島というイメージがありました。しかし最近では他県に抜かれ、特に平均寿命の男女差は青森に次いで2番目に差が大きいです。男性の平均寿命についての対策はなにかありますか。

3. 基地問題が関係していると思いますが、沖縄独立論という意見があると聞きます。たしかに、もともと琉球国であったわけですが、沖縄独立という意見は、県内でも多くなってきているのでしょうか。